探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：長江中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
尾道市立長江中学校	１０	２２３
尾道市立長江小学校	８	１４９
尾道市立土堂小学校	１２	２５４

（R3.11.1現在で記入）

１　指導上の課題

本中学校区には、地域の自然・歴史・文化・芸術など魅力的な題材が多くあり、そうした題材を生活科や総合的な学習の時間に位置付けている。しかしながら、「知ること」に主眼を置きがちで、「最適解を見つけ出す発展性のあるプロジェクト」を扱う学習や、現実と未来を埋めるような探究を組み込む学習の創造までには至っていない。

これまで３校がそれぞれの地域や学校、児童生徒の実態や発達段階に応じて、研究を積み重ねてきたが、今後は、これまでの取組をベースに本事業における探究的な学習の単元開発を創造して、他の教科の学習にも応用できる資質・能力を育成することが大切である。

２　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

〇テーマ

生活科や総合的な学習の時間において、「答えのない問い」に果敢に挑戦し、他者と協働して自分たちなりの価値ある答えを見出す探究的な学習の創造

〇研究のねらい

①中学校区で育てたい資質・能力の整理と評価方法の確立

②育成を目指す資質・能力と教科で身に付けた知識及び技能のつながりを意識し、「目指す子供像」を具体化した９年間を見据えたカリキュラムの作成

③SDGｓとPBLの視点を入れた単元開発

（2）資質・能力の設定について

まず、中学校区で共通認識をもって児童・生徒を育成するために「９年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を、「答えのない問い（答えが１つではない問い）に対して、一人一人の生徒が、複数の視点から解を導き出し、それを交流する。そのとき、他者の解とすりあわせながら、そのとき考えられる最適な解を導き出せる。」と設定した。

そして、「９年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を踏まえて「中学校区で共通して育成したい資質・能力」を「主体性」「協働性」と設定した。

（3）取組について

【小中連携の取組】

〇長江中学校区で共通して育成したい資質・能力の設定

「９年間のゴール、中学校３年生で育成を目指す姿」を３校で共有すると共に、各校の課題を関連付けて考察した結果「中学校区で共通して育成したい資質・能力」を「主体性」「協働性」と設定した。

単元開発、授業づくり（後述）についても、学校間で授業を公開・参観し合い、PBLの視点での授業づくりについて共通認識を図った。

また、資質・能力を評価するルーブリックの作成（後述）において、各学校で作成したルーブリックを持ち寄って、小学校１年生から中学校３年生の学年ごとの姿を検討し、資質・能力に学年における系統性があるのかについて協議を進めた。

【探究的な学習の充実に向けての取組】

〇PBLの視点を意識した単元開発、授業づくり

PBL（Project Based Learning）について、中学校区全体で

・「答え（ひとつの解）のない問い」を扱う学習･･･レールの無い、予定調和ではない、協働性、折り合いを付けながら

・実生活・実社会の課題を解決する学習･･･児童にとって自分事、現実的、主体的

・社会へ還元する学習･･･学校外の他者とのかかわり、達成感、自己有用感

という共通認識を教職員一人一人がもてるようにしてこれらの視点を意識しながら単元開発、授業づくりに取り組んだ。

【資質・能力の評価】

〇資質・能力を評価するルーブリックの作成と活用

ルーブリックによって評価基準を明確にし、妥当性・信頼性・客観性をもてるようにすること、形成的評価（授業者の授業改善、学習者の学習改善）につなげることを意図した。

学校間、教職員間での、「主体性」「協働性」の捉えのズレをなくすために、各学校の教職員で、具体的な「主体性」「協働性」が発揮された児童・生徒の姿について話し合い、それらを持ち寄って長江中学校区で考える「主体性」「協働性」の発揮された姿、評価基準を具体化していった。

３　実践事例

【PBLの視点を意識した単元開発、授業づくり】

〇尾道市立長江小学校　第６学年

「感謝を込めて地域へ恩返しプロジェクト

～長江を笑顔で溢れさせよう～」

・児童が自分事として考えることができるテーマの設定

課題設定の場面で、最高学年として自分たちが地域にできる恩返しプロジェクトを考え、実行しようという自分事としての課題を設定できるようにした。

・多様な視点、新しい課題に気付かせるショック（新たな「えっ!?なぜ？」）の場面の設定

・多様な視点、考え方（実生活・実社会）に触れさせるための地域人材の活用

地域の公民館館長や町内会長、お店の方など、日頃から地域全体のことを考えていらっしゃる方をゲストティーチャーとして呼び、作成したパンフレットや動画に対して、児童が想定していなかった視点での評価を頂く場面を設定した。

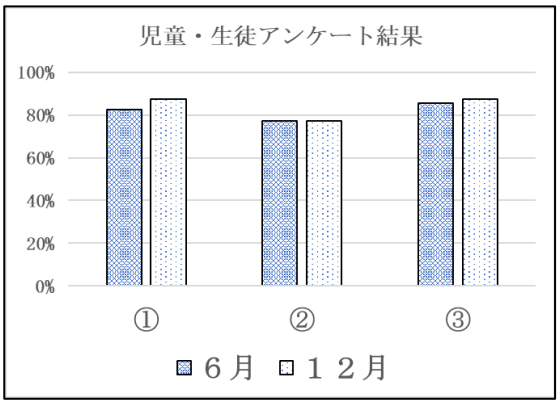
○尾道市立土堂小学校　第４学年
「千光寺をよりよくし隊」
・新たな環境を生かした単元づくり
　仮設校舎への移転を機に、尾道を代表する観光地である千光寺やその周辺について知り、今ある観光客減少の課題を解決するためにできることはないか考える活動を設定した。
・実行する取組を多様な視点で考える
　友達の意見だけでなく、考えた取組の計画書を市役所の観光課の方に見ていただくなど、取組の効果について検討する場を設定した。
・児童が主体的に動く活動の設定
　グループごとに自分たちで設定した課題に取り組み、それぞれのグループが課題解決に必要なことを考えて、校長室を訪れ計画書のアドバイスをもらったり、地域の方に協力を求めたりする活動を行った。

　中間報告会ではタブレットを活用し、計画書へのアドバイスを友達同士ですることで新たな気付きが生まれる活動を行った。

○尾道市立長江中学校　第１学年
「遊んで！学んで！未来につなごう！
　　目指せ！ＳＤＧｓマスター！」
・「対象」を考えて物事を考えたり、発想したり、想像したりする力をつける課題の設定
　他の班、他クラスや小学校の先生方など、多くのアドバイスを基に、実践と改善を繰り返し、「最適解」を模索していけるようにした。
・小学生に発信するというゴールをもつことによって、様々な情報を取捨選択する力の育成
　全ての情報を鵜呑みにしたり、そのまま活用したりせず、より小学生に伝わるよう工夫して読み札と絵札の作成を行った。

　生徒がSDGsについて知ることから始まり、自分たちにできることから解決していこうとする主体性と、多様な表現ができるカルタの絵札と読み札に、小学生という相手意識を含めることで、より良いカルタを求め続ける主体性を育む課題となった。また、班で１セット（５０音）作成する条件と、他者からアドバイスをもらう場面を設けることで、協働性を育む課題にもなった。

４　研究の成果と課題等



①探究的な学習に取り組むことができる。
　　６月 82.4%　　12 月 87.5%
②資質・能力「主体性」の高まりを自覚できる。
　　６月 77.2%　　12 月 77.2%
③資質・能力「協働性」の高まりを自覚できる。
　　6月 85.4%　　12月 87.3%

（１）成果

　児童・生徒アンケートにおいて、探究的な学習に取り組むことができる児童・生徒の割合が5.1%向上した。PBLの視点を取り入れた単元開発、授業づくりによって、教師主導ではない児童自らが学ぶ探究学習に取り組むことができた。
　ルーブリックを活用した振り返りには、課題に対して自分の考えをもって積極的に関われたという主体性の観点や、他者との関わりの中で新たな考えやより良い方法に気づけたという協働性の観点で自身の変容を振り返る記述が見られた。
　中学校区の教職員同士が意見を出し合い、考えを交流しながら資質・能力について話し合ったり、単元開発や授業づくりを進めたりすることができた。

（２）課題

①児童・生徒アンケートにおいて、主体性の高まりを自覚できる児童・生徒の割合に向上が見られなかった。実際の授業場面や振り返りの中では、課題を自分で見付けたり、その課題を解決しようとしたりする児童・生徒の姿が見られたが、児童・生徒自身の自己評価では向上が見られなかった。
②中学校区として共通認識をもって単元開発、授業づくりに取り組むことはできたが、学年間や学校間の関連を意識したカリキュラムの整理・作成にまでは至らなかった。

（３）今後の改善方策等

①今年度作成したルーブリックを活用して、教師評価や児童同士の相互評価の場面を設定し、児童自身が身に付けた資質・能力をより自覚できるようにする。また、ルーブリックの内容を活用する中でブラッシュアップしていき、より形成的評価（授業者の授業改善、学習者の学習改善）につながるものにしていく。
②児童・生徒の気付きから学びを深めていくことができる単元の見直しと授業展開が実現できるよう小学校１年生から中学校３年生までの９年間を見据えたカリキュラムの整理・作成を進める。